

- 問1 1867年に徳川慶喜が政権を朝廷に返したものの、旧幕府側の勢力が依然として政治的影響力を持つことを危惧した薩摩藩・長州藩などの倒幕派が、天皇を中心とする政治体制の確立を目指して発した宣言を何といいますか。 (2020年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 版籍奉還の建白 2. 五箇条の御誓文 3. 廃藩置県の詔書 4. 王政復古の号令
- 問2 日本では江戸幕府が倒れ、戊辰戦争を経て明治維新へと進んでいた19世紀後半、世界各地でも国家の統一や近代化に向けた大きな動きが見られました。この時期のアメリカ合衆国の状況について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2024年 千葉県公立入試 類似)
1. 自由貿易と奴隷制廃止を求める北部と、保護貿易と奴隷制維持を求める南部が対立し、大規模な内戦が展開された。
2. 国王が議会を無視して増税を強行したことから内乱となり、最終的に血を流さずに立憲君主制へと移行した。
3. 絶対王政による圧政に対して市民が立ち上がり、人権宣言が採択されて国王が処刑される革命が起きた。
4. イギリスの植民地支配からの独立をめざして戦争が起こり、自由と平等を掲げた独立宣言が発表された。
- 問3 19世紀半ばにイギリスが清との間で南京条約を締結するに至った歴史的背景と、その内容についての説明として最も適切なものはどれですか。 (2019年 千葉県公立入試 類似)
1. 日本が清へ進出したことに危機感を覚えたイギリスが清を支援して戦争を終わらせ、講和条約によって租借地としての香港を獲得した。
2. 清がイギリス領のインドへ侵攻したことで戦争が始まり、講和条約によってイギリスは北京に公使館を設置する権利と賠償金を得た。
3. イギリスによるアヘンの密輸に対し、清がこれを取り締まったことで戦争が始まり、講和条約によってイギリスは香港の領有と多額の賠償金を得た。
4. イギリスが茶の貿易を独占しようとしたことに清が反発して戦争が始まり、講和条約によってイギリスは清を保護国とし賠償金を免除した。
- 問4 1858年に結ばれた条約に基づき、日本地図上において江戸に近い位置にあり、当時「神奈川」として開港が予定されながらも、実際には隣接する村が整備されて開港場となった現在の都市名を次の中から選びなさい。 (2017年 茨城県公立入試 類似)
1. 下田 2. 神戸 3. 横浜 4. 函館
- 問5 幕末に日本へ来航したペリーの艦隊は、産業革命によって生み出された蒸気機関を搭載していました。この技術革新が航海に与えた歴史的な影響として、最も適切な説明はどれですか。 (2019年 奈良県公立入試 類似)
1. 風向きや海流の変化に左右されず、目的地へ向けた安定した航行が可能になった。
2. 石油を燃料とすることで、石炭を積むスペースを削減し、船体の小型化に成功した。
3. 帆をすべて廃止したことで、船体の重心が安定し、嵐の中でも沈没しない船が完成した。
4. 電気モーターを利用することで、騒音を抑えて日本近海へ隠密に接近することが可能になった。
- 問6 1842年に江戸幕府が出した方針に関する記述として、正しいものを次の選択肢から選びなさい。この方針は、隣国の清がイギリスとの戦争に敗れた情報を得た幕府が、それまでの武力行使による対外政策を転換するために出したものです。 (2015年 山口県公立入試 類似)
1. 海岸に近づく外国船を、事情を問わず見つけ次第砲撃して追い払うよう命じる法令
2. ロシアの南下に備えて、最上徳内や近藤重蔵らに樺太などの北方領土を調査させる方針
3. 長崎・下田・函館などの港を開き、アメリカなどの諸外国と自由貿易を認める方針
4. 日本近海に現れた外国船に対し、燃料である薪や水などを与えて穏やかに退去を命じる法令
- 問7 日米修好通商条約などの不平等条約を改正することは、明治政府にとって長年の悲願でした。このうち、1911年に外務大臣・小村寿太郎が交渉にあたり、完全に回復することに成功した権利はどれですか。 (2018年 三重県公立入試 類似)
1. 領事裁判権 2. 関税自主権 3. 排他的経済水域の管轄権 4. 参政権
- 問8 1860年代の横浜港における貿易品目の特徴と、当時の貿易収支の状況について説明した文として、正しいものはどれですか。なお、当時の横浜港では、ある品目が輸出の65.1%を占め、別の品目が輸入の52.8%を占めていました。 (2017年 香川県公立入試 類似)
1. 輸出品は生糸、輸入品は綿織物が中心であり、輸入額が輸出額を上回る輸入超過の状態であった。
2. 輸出品は綿織物、輸入品は生糸が中心であり、輸出額が輸入額を上回る輸出超過の状態であった。
3. 輸出品は茶、輸入品は武器が中心であり、輸入額が輸出額を上回る輸入超過の状態であった。
4. 輸出品は生糸、輸入品は綿織物が中心であり、輸出額が輸入額を上回る輸出超過の状態であった。
- 問9 幕末の長州藩は、外国勢力を武力で排除しようとする「攘夷」を掲げていましたが、1864年にイギリス、フランス、アメリカ、オランダの四国艦隊による下関砲撃を受け、大敗を喫しました。この敗北が、その後の長州藩の行動にどのような影響を与えたか、最も適切なものを選びなさい。 (2019年 滋賀県公立入試 類似)
1. 攘夷の失敗は精神力の不足にあると考え、新式兵器の導入を拒否し、伝統的な武芸による防備の徹底をさらに進めた。
2. 敗北の責任をすべて幕府に押し付け、軍事的な衝突を避けるために、諸外国に対して無条件での開国と幕府への臣従を誓った。
3. 幕府が推進する公武合体の政策を支持し、天皇の権威と幕府の力を結びつけることで鎖国体制を維持しようとした。
4. 欧米諸国との圧倒的な軍事力の差を痛感し、攘夷から、海外の技術を導入して近代化を図ることで国家を強化する方針へと転換した。
- 問10 18世紀から19世紀にかけて、イギリス・清・インドの間で行われた貿易構造の変化について、その背景と目的を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2021年 長野県公立入試 類似)
1. インド産の茶を清に輸出するルートを確認し、清が保有する大量の銅銭をイギリス本国へ運ぶことを目的とした。
2. 清から茶を輸入する代価として銀が流出したため、インド産のアヘンを清に売ることによって銀を回収し赤字を解消しようとした。
3. イギリス国内での綿織物の需要拡大を背景に、清へ直接工業製品を売り込むことで貿易黒字を目指した。
4. 清との貿易を有利に進めるため、イギリスはインドを仲介させて銀を日本へ運び、日本から茶を輸入する仕組みを作った。
- 問11 明治政府が1875年にロシアとの間で結んだ「千島・樺太交換条約」の目的と内容について、最も適切な説明を選びなさい。 (2019年 福島県公立入試 類似)
1. ペリーの来航以来続いていた不平等条約を改正するため、ロシアの領土であった樺太を日本が買収した。
2. 長崎の出島で行われていたオランダ貿易をロシアにも認める代わりに、千島列島の一部を割譲した。
3. ロシアとの領土問題を解決して国境を確定させるため、日本が樺太の権利を放棄する代わりに、千島列島を日本領とした。
4. 『解体新書』などの翻訳を通じて学んだ西洋の軍事技術を導入するため、樺太をロシアとの共同管理地とした。
- 問12 1863年に勝海舟が任命を受けて、現在の神戸市にあたる地域に設立した、近代的な海軍の教育・養成を行うための機関として正しいものを次から選びなさい。 (2024年 兵庫県公立入試 類似)
1. 神奈川の横浜に設立された海軍練習所 2. 長崎に設立された海軍伝習所 3. 兵庫近郊に設立された神戸海軍操練所 4. 大阪に設立された適塾

答え合わせ・解説

問1	答え 4 王政復古の大纲令	大政奉還が行われた後、徳川氏が実質的な権力を握り続けることを防ぐために発せられました。この宣言により、江戸幕府の廃止とともに摂政や関白といった従来の官職も廃止され、総裁・議定・参与の三職を置くなど、天皇による新しい政治の仕組みが整えられました。
問2	答え 1 自由貿易と奴隷制廃止を求める北部と、保護貿易と奴隷制維持を求める南部が対立し、大規模な内戦が展開された。	日本の幕末から明治維新にかけての時期（1860年代）は、アメリカでは南北戦争が戦われていた時期に相当します。北部はイギリス製品に対抗するため保護貿易を求めましたが、南部は原材料を輸出するため自由貿易を求めるなど、経済面でも対立がありました。他の選択肢は、18世紀のアメリカ独立戦争やフランス革命、17世紀のイギリスにおける名誉革命の説明です。
問3	答え 3 イギリスによるアヘンの密輸に対し、清がこれを取り締まったことで戦争が始まり、講和条約によってイギリスは香港の領有と多額の賠償金を得た。	産業革命後のイギリスは、清への茶の代金として支払っていた銀を回収するため、インドで生産したアヘンを清に密輸しました。清が国民の健康と経済を守るためにアヘンの廃棄・取り締まりを強行したことが戦争の直接の引き金となりました。南京条約によって清は多額の賠償金の支払いと香港の割譲を余儀なくされ、アジアにおける欧米列強の影響力が強まる契機となりました。
問4	答え 3 横浜	日米修好通商条約で定められた開港場の一つです。幕府は、東海道の宿場町として賑わっていた神奈川（現在の横浜市神奈川区周辺）を外国人と接触させることを避け、対岸の横浜村を整備して開港場としました。これが現在の横浜港の発展につながりました。
問5	答え 1 風向きや海流の変化に左右されず、目的地へ向けた安定した航行が可能になった。	蒸気機関による動力の確保は、従来の帆船が抱えていた「風がなければ進めない」「逆風では目的地へ向かうのが困難」という制約を打ち破りました。これにより、軍事的な機動力や貿易の効率が劇的に向上しました。なお、燃料が石炭から石油へと移行するのは19世紀末から20世紀にかけてのことであり、幕末当時は石炭が主要な燃料でした。
問6	答え 4 日本近海に現れた外国船に対し、燃料である薪や水などを与えて穏やかに退去を命じる法令	江戸幕府は、1840年から始まったアヘン戦争において、大国である清がイギリスに敗北したことを知り、強い衝撃を受けました。それまでは1825年に出された異国船打払令に基づき、外国船を武力で追い払う強硬な姿勢をとっていましたが、同様の衝突を避けるために方針を緩和し、天保の薪水給与令を出して燃料や水の提供を行うこととしました。
問7	答え 2 関税自主権	条約改正は二段階で進みました。まず1894年に陸奥宗光が領事裁判権（治外法権）の撤廃に成功しました。その後、日露戦争を経て日本の国際的地位が高まった1911年、小村寿太郎がアメリカをはじめとする各国と交渉し、自国で関税率を決定できる「関税自主権」を完全に回復したことで、幕末以来の不平等条約は完全に解消されました。
問8	答え 4 輸出品は生糸、輸入品は綿織物が中心であり、輸出額が輸入額を上回る輸出超過の状態であった。	幕末の貿易において、日本の最大の輸出品は生糸であり、次いで茶などが挙げられます。一方で輸入品は綿織物や毛織物といった衣類原料が中心でした。1860年から1867年にかけての輸出入額の推移を見ると、一貫して日本の輸出額が輸入額を上回っており、この状態を輸出超過と呼びます。この貿易構造は、国内の物資不足や物価高騰を招く一因ともなりました。
問9	答え 4 欧米諸国との圧倒的な軍事力の差を痛感し、攘夷から、海外の技術を導入して近代化を図ることで国家を強化する方針へと転換した。	長州藩は四国艦隊下関砲撃事件を通じて、武力によって外国勢力を排除することの不可能性を認識しました。これを機に、藩の指導部は攘夷路線を転換し、かつての敵であったイギリスなどの欧米諸国から最新の武器や軍事技術を導入する道を選びました。この方針転換が、のちの薩長同盟や倒幕運動、そして明治維新へとつながる強力な軍事力の形成に直結しました。
問10	答え 2 清から茶を輸入する代価として銀が流出したため、インド産のアヘンを清に売ることによって銀を回収し赤字を解消しようとした。	18世紀のイギリスは清からの「茶」の輸入過多により「銀」が流出する貿易赤字の状態にありました。これを打破するため、19世紀にはインドから清へ「アヘン」を送り、清から流出する銀を茶の代金に充てる三角貿易を形成しました。この仕組みにより、イギリスは銀の流出を抑え、貿易の主導権を握ることに成功しました。
問11	答え 3 ロシアとの領土問題を解決して国境を確定させるため、日本が樺太の権利を放棄する代わりに、千島列島を日本領とした。	明治政府は、欧米列強と対等に渡り合うために、曖昧だった国境を明確にする必要がありました。当時は樺太において日本人とロシア人の居住地が混在し紛争の火種となっていたため、樺太の全域をロシア領、千島列島の全域を日本領とすることで、北方における国境を確定させました。
問12	答え 3 兵庫近郊に設立された神戸海軍操練所	幕末、勝海舟は軍艦奉行に任命され、兵庫の地に海軍養成機関を設立しました。ここでは坂本龍馬など諸藩の志士たちも学び、近代的な海軍技術の修得を目指しました。設問にある「神奈川」や「大阪」は、当時の他の教育機関や港に関連する誤りやすい地名です。